

挑む!

中学校で「居場所」開設

阪上 由香さん(32)

あなたの話、しっかり聞かせて



2012年設立のNPO法人「FAIR ROAD」理事長。子ども好きで、幼稚園教諭だった時期もある。中学生に「ゆかさん」と呼ばれている。

高校生がNPOのスタッフらと雑談しながら、悩みを話せる「高校内居場所カフェ」が各地で広がるが、その一歩先を進む。昨年10月、大阪市港区の市立中学校の教室で居場所を始めた。週1回、昼休みや放課後、机を並べ

替えた教室に生徒らがひよっこり顔を出す。悩みを打ち明けてもよし、カードゲームで遊んでもよし。宿題をする生徒もいる。他のスタッフらと、ありのままの生徒を受けとめる。親でも先

生でもない「止まり木」的存在だ。

大学卒業後、5年間勤めた学習塾での経験が原点。不登校や経済的困窮を抱えるヤンチャな中学生を相手に奮闘した。決めつけないでしっかり話を聞き始めたなら、成績が上がり始めた。

「親も子も『分かってもらえる』と思えることが大事なんだ」と確信した。

だが、塾の限界も見えた。心も疲れ、一時期タイへ。帰国後、高校内居場所でも働いた後、立ち上げたNPOで府内2高校の居場所を担った。でも、高校は中退してしまおうと関係が切れる。「もっと早く関わっていたら、親子とも支えられたのに」と思うことが増えた。そうした子どもと出会うには……。「中学校が本命」になった。

今年に入り、保護者があいさつに来た。「居場所のある日の中学校は楽しかった。子どもが言うんです」。手応えを感じている。文・写真 中塚久美子

記者から

居場所の名は「はとばカルッチャ」。生徒が気軽に重い荷を下ろせるように、との思いだそうだ。